

平成29年度 京都府立桂高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点
<p>教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創造性に富み、心豊かな、たくましい人間の育成を図る。 ・地域に根ざし、地域に愛される「地域の高校」を目指し、学力の向上と調和のとれた人格の形成を図る。 <p>1 学力の向上と希望進路の確保</p> <p>2 読書活動の推進</p> <p>3 学校行事の充実と発展</p> <p>4 健康で安全な学校生活の維持</p> <p>5 部活動の推進と充実</p>	<p>成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒が主体的に学習に向かう授業づくりに向けての研修の充実 2 地域や小・中学校に対して連携の充実に向けた取組実践 3 各種大会（専門学科）での成果発表 4 部活動の充実と活発化 5 本校ウェブサイトなど充実した広報活動 <p>課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 上記1、2のさらなる改善・充実・発展 2 進路実現に向けてさらなる支援 3 広域通学に伴う保護者との連携強化 4 部活動の充実と学習活動の両立に向けた工夫 	<p>1 特色ある学校づくりの推進</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) SSH事業を充実させ、海外研修の成果を活かし国際的に活躍できる科学者の育成を目指す。 (2) 普通科のSSH事業の取組を充実させる。 (3) 部活動の充実と全校的な取組によりボランティア活動の推進を図る。 <p>2 学力の充実と進路希望の実現</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 新しい学力観に基づき、各教科のシラバスの改善と学力向上につながる取組の充実を図る。 (2) 主体的な進路選択能力を育成し、より高い水準で希望進路実現を図る。 (3) 土曜授業を含めた、より効果的な教育課程を編成する。 (4) 生徒一人ひとりの進路実現に向け組織的に取り組む。 <p>3 生徒指導の徹底</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 規範意識の向上と基本的な生活習慣を確立する。 (2) 自他の生命や人権の尊重を基盤に正しい判断力と実践力を育成する。 (3) 生徒会活動、部活動等、積極的に自主活動を支え、より一層活気ある校風を樹立する。 <p>4 人権教育及び道徳教育の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 人権教育を推進し人権尊重の精神を養うとともに行動力を育成する。 (2) 生徒一人ひとりに応じた支援及び指導体制を確立する。 <p>5 教育相談及び特別支援教育の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒を支援し、自立を促す教育を充実させる。 (2) 特別支援教育についての取組を充実させ、認識を深めて正確に理解し実践力につなげる。

平成29年度 京都府立桂高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（年度末評価）

評価領域	重点目標	具体的方策	No	評価		成果と課題
組織・運営	◇各種会議の組織体制を整備し、各分掌の機能を活性化させる。	◆各分掌部長は学校運営にあたって、校長の経営方針をよく理解し、本校の教育活動全般の活性化に向けて分掌を組織的に導き、活力ある学校運営を行う。	1	B	B	組織的な学校運営に努めたが十分とは言えない。各分掌部長、教科主任を要に部長会議、教科会議の機能を更に高める工夫が必要である。新しい学習指導要領の改訂を視野にいれ、公開授業を更に効果のあるものにするための仕掛けが必要である。普通科A方式の志願者数の減少が見られる。分析し結果を基に対策を考えていきたい。とりわけ、各教科が課題を把握し、預かった生徒の学力を伸ばしていく効果的な指導を組織的に取り組むことが重要で有り課題である。普通科も含めたSSH事業の深化・発展、次期学習指導要領改訂も踏まえ、選抜方法や教育課程等更により良いものにしていきたい。
	◇地域の信頼を高める学校づくりを行う。	◆小・中学校との連携をさらに深めるため、公開授業や出前授業を実施する。	2	C	B	
	◇平成28年度入学者選抜の改善に向け学校の特色化を図る。	◆選抜方法の工夫・改善を行い、本校が求める生徒の募集につなげる。	3	B		
	◇SSHの取組を研究し、充実させる。	◆平成29年度入学生の実態を踏まえ、進路希望に応じた行事を開催し、教科指導と連携しつつ学習意欲を高める。	4	B		
	◆II期目の指定を視野に、普通科を含めた全校的な実施体制を確立し、I期指定5年目を迎えたSSH事業を一層深化・発展させる。	5	B	B		
学習指導	◇「よりよい授業」構築のため、教科指導力を向上させ、生徒の学力充実に繋げる。	◆公開・研究授業週間を年2回実施し、授業アンケートの結果等も踏まえて、教員全員が授業力の向上のため研鑽する。 ◆授業規律の確立について、全教職員が共通の意識を持ち一致した指導を行うことによって、生徒が集団として学習意欲を持って授業に取り組める基礎を作る。	6	B	B	授業アンケートは管理職主導のもと実施し、授業力向上に向けた取り組みとなった。公開・研究授業週間は、それぞれの教科で研究授業が実施され、授業者にとっても見学者にとっても有意義な取り組みとなった。より盛んに見学が行われるように、改善していきたい。 平成30年度や平成31年度の教育課程を作成するにあたり、生徒の希望進路を実現させるもの、という観点で、教科主任会議などを通じて各教科と連携をすることができた。また、科目選択については、学年団と連携を取り、滞りなく混乱なく、正確に進めることができた。 日々の授業について、滞りなく効果的に実施されるよう、時間割等で十分に配慮することができた。土曜授業については、一定の成果は得たものの、実施日については見直す余地があり、次年度の年間行事計画を立てる上で、見直しを図りたい。
	◇希望進路の実現につながるよう学力を向上させる。	◆各分掌や各教科において生徒の学力の向上と希望進路の実現に向けて創意工夫を重ねるとともに情報を共有し組織的に取り組む。 ◆科目選択を適切に行えるよう、担任と各分掌が生徒及び保護者に対して的確な説明をする。	7	B		
	◇教科に対する興味と学習意欲を高め、学力を向上させる。	◆土曜授業を全学科において年間16回実施し、学力を向上させる。 ◆学習強化週間（年間計10週間）を定期考査毎に実施し、自学自習・自主自律を基本とした学習習慣を身につけさせる。 ◆各学年で、生徒の実態を踏まえ、進路希望に応じた行事を開催し、教科指導と連携しつつ学習意欲を高める。	8	B	B	
			9	A		
			10	C		
			11	B		
生徒指導	◇生徒指導の現状と課題について、教職員の共通理解を深め、基本的な生活習慣と規範意識を確立させる。	◆日常の生活指導の状況について教職員にきめ細かな連絡相談、報告を行う。 ◆生徒指導部と学年部、各分掌が連携して授業規律の確立、服装・頭髪指導、遅刻指導にあたる。	13	B	B	服装・頭髪指導、遅刻指導を年間通じて実施できたが、各分掌との相談や報告などきめ細かい連携が不十分であった。特別指導の件数も増加しており、各分掌との連携を来年度の重要課題としたい。 学園祭等、生徒自主活動の実施は一定成果がみられた。生徒の自主性を引き出すリーダー研修等実施も必要となる。
	◇生徒会を中心にリーダーを育成し、生徒の自主性を育む。	◆生徒会が学校生活のさまざまな面でリーダー性を発揮できるように、生徒指導部を中心に適切な指導を行う。 ◆学園祭会議を通して、文化祭や体育祭を全校生徒が自主的に取り組むような行事とする。	14	C		
			15	A		
			16	A		

特別活動等	◇部活動と学習を両立させ、部活動や野外活動等で学ぶ集団行動や規範意識を生涯にわたる基礎とする。	◆部活動加入率を高めるだけでなく活動内容も充実させ、学校全体を活性化する。 ◆野外活動や研修旅行の教育的意義を十分に理解させ、生涯学習の礎とする。	17	B	B	B	部活動加入率は若干減少している。また、学年進行に伴う若干の低下傾向と高い競技力を求めない生徒が加入できる運動部や文化系クラブの加入率と活動の質的向上が課題である。 野外活動はその意義や時期も定着し一定成果はみられるが、クラス替えのないHRの活動内容に課題を残している	
			18	B				
進路指導	◇生涯を見通した進路選択のための適切な指導と援助を行う。	◆3年間の系統的な進路指導計画を策定し、適切な時期に的確な資料・情報を提供する。	19	B	B	B	資料・情報の提供については保護者アンケートの評価も向上し、一定の成果は得られたと思われる。就職に関しては今年度も11月時点で内定100%を達成した。好景気の背景もあると思われるが、指導の成果がうかがわれる。補習や模擬試験においては生徒や学校のニーズに応じて新たなものを導入した。(3年生2月補習、1年生1月進研模試等)	
	◇希望進路実現のために必要な学力の充実と向上を図る指導と援助を行う。	◆就職希望者のために会社訪問を積極的に行い、企業開拓を実施する。 ◆生徒の実態に即した補習計画(平日補習・長期休業中補習)を効率的に運用するとともに、模擬試験や実力テストを積極的に受験させ活用する。	20	B				
			21	B				
人権教育	◇教育活動全体に人権教育を適切に位置づけ、一人一人を大切にした教育を推進する。	◆日常の教育活動全般をとおして、人権問題を自らの生き方の問題として捉えさせる。また、人権学習の講演や映画鑑賞を通じて、自己と他者(社会)との関わりを考えさせたりする。特に、いじめや差別を許さない生徒の育成に努める。	22	B	B	B	「いじめアンケート」実施と事後指導による丁寧な生徒対応を担当団と協同して行えた。 人権学習講演会や人権映画鑑賞等の実施と事後指導も行い人権意識向上を図れた。	
健康・安全教育	◇健康・安全についての意識を高め、自律的な生活習慣を確立させる。	◆健康診断の結果を基本的生活習慣の確立への指導に活用する。 ◆保健委員会活動を活性化し、生徒自らが健康、美化活動などに取り組む。	23	A	B	B	健康診断の未検者に対して再検診の実施等、健康状態を認識する第一歩を促した。保健委員会は昨年度から担当したカーテン交換の下準備を含め、「保健だより」作成や水質検査等、年間を通して取り組む活動に従事した。しかし、自主的活動にまでは高まっていないところが課題である。今年度より、教育相談・特別支援会議を可能な限り月1回実施しより細やかな情報共有に資することができた。日常的に保健室と担任等との連携を行った。清掃活動全般は良好と言える。特に昨年度来の「ゴミ分別」のかなり定着した。	
	◇教育相談を充実させる。	◆心身に何らかの課題を持つ生徒に対し、教育相談支援会議等の支援体制を強化し、個々に応じた支援を学校全体として取り組む。	24	B				
	◇校内の環境美化を推進する。	◆日常の清掃活動の徹底とともに、重点的な大掃除を実施し校内美化と学習環境の整備を行う。	25	B				B
			26	A				A
渉外・広報・事	◇広報活動の充実し、学校情報の迅速に提供する。	◆ホームページを迅速に更新し、広報誌「桂だより」を地域に回覧するなど、本校の教育活動への関心を高め、理解を促す。	27	B	B	B	ホームページを常に迅速に更新するだけでなく、桂ブログは随時更新し、本校の日々の状況を広報することができた。また今年度も研修旅行先から活動状況をブログで広報できた。 学校公開等について、参加者は昨年度と同規模で開催することができ、本校の教育方針等を中学生やその関係者に広報することができた。新たに単独で専門学科説明会を1回追加開催し、好評を得た。本校希望者数が減となった点につ	
	◇積極的な生徒募集、本校への志願者の増加の取組を実施する。	◆学校公開・説明会、部活動見学、公立学校合同説明会などを通じて、中学生・保護者に本校の学校経営の重点や今後の方向性などを十分に伝え、本校への志願者を増やす。 ◆保護者・PTA・学校評議員・学校評価委員との連携を強化し、外部評価を積極的に取り入れ、学校改善に活用する。	28	B				
			29	B				

務	◇学校施設を整備・改修し、また広報活動を行う。	◆本校教育活動の円滑な推進と、生徒の安心・安全な教育活動の推進や諸会議等における来校者の印象向上に向けて施設設備を絶えず点検整備するとともに、施設内の広報板等を活用し地域住民や来校者に広報活動を行う。	30	B		いては分析したい。 教育環境整備は速やかに対応するようにしているが、さらに整備が必要な個所が残されているため順次計画的に整備を行っていきたい。来校者の印象向上に向けてさらに職員間の連携を図りたい。
---	-------------------------	--	----	---	--	---

研究・開発	◇農業・環境のスペシャリスト育成を目指し研究開発に取り組む。	◆これまでの成果と課題を踏まえて、さらに深化させた研究開発に取り組み、全国規模の大会において優秀な成績を収める。	31	A	A	課題研究授業TAFSを中心とした教育課程を展開し、その有効性を示す指標としてきた「国際大会への出場」、「進路実績の充実」を達成することができ、本教育課程が「研究活動を通して学力を身に付け、探究心と表現力を養う教育活動」であること証明できた。また、追跡調査により京都大学大学院への進学者も2年連続あられ、「科学者としての資質の育成」というSSHの大目標も達成できていると考えている。
	◇専門科目の授業、教科指導の充実・発展に取り組む。	◆TAFS(Training in Agriculture for Future Scientists)、専門学科の教科指導、総合実習、農業クラブ活動を通して、専門性を高めるとともに、規範意識を養う。	32	A	A	
		◆SSHの趣旨を具現化するため研究を国内外で発表できる生徒を育成する。	33	A	A	

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> 授業も含め校内を案内してもらって、廊下などの清掃が以前よりもきれいになっている。 授業は、一方通行ではなく双方向のコミュニケーションが大切。授業を見て若い先生方のエネルギーを感じた。今後に期待したい。 卒業式の様子も見せていただいたが、頭髪身だしなみなども年々整ったものとなっており、式の返事も含め大変すばらしい卒業式であった。進学面での実績も年々向上しているようで大変誇りに感じている。 阪急の駅前での犯罪撲滅キャンペーンなどでの生徒の声や態度もたいへん落ち着いていて自信にあふれた様子であった。学校評価アンケートの様子を見ても年々学校がよくなっていることを感じている。 生徒が地域の活動も含め以前よりも主体的な姿勢で取り組んでいる。学校の教育活動の中で得意なもの1つでも生徒が自主的、主体的に取り組める力を一層高めてほしい。 ストックホルム水大賞日本代表に選ばれるなど素晴らしい活躍をしている。家庭や職場でも話題になっている。 桂高校はかつてから伸び伸びとした校風があり是非その良さも大切に伸ばしてほしい。いろいろな発想のできる生徒を大切に伸ばし、その芽をつまないような教育を期待する。
-----------------	---

次年度に向けた改善の方向性	<p>あらゆる教育活動を効果的に推進するため、各分掌・各教科が組織的かつ重層的に活動し、全教職員が常に学校全体の観点に立ちながら各自の役割を果たす学校体制を構築する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 コース制による教育課程の成果と課題を整理し、次期学習指導要領改訂を踏まえて内容の改善を図る。 2 SSH事業においては、国際的科学者の育成を目指し海外研修を実施するとともに、普通科教育の取組を一層充実させる。 3 早期に進路意識を高める取組を行い、自己の学力の把握と向上のため模擬試験の活用など、生徒が希望進路実現のために主体的かつ計画的に取り組むことを支援する。 4 生徒の規範意識を高め基本的な生活習慣の確立のために、全校体制で生徒指導に取り組む。また、SNS等による人権侵害を未然に防止するため、効果的な啓発活動を実施する。 5 発達障害等様々な課題を有する生徒に対して、教職員の共通理解のもと、スクールカウンセラーや中学校、地域支援センター等の関係機関と一層密接に連携し、進級・卒業に向け支援する。 6 次期学習指導要領改訂を見すえ「主体的、対話的で深い学び」の実現を目指し研修の充実と授業改善を行う。
---------------	--